

園名（ 芳田こども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 子どもの健やかな成長が図れるよう、日々の関わりを大切にしている。また、保護者や祖父母にも園に来ていただく行事を計画し、園を知っていただき、安心してもらいたい。
- 子育て支援を十分にしていきたい。
- 主幹も乳幼児担当と幼児担当で別々に配置しており、きめ細かい関わりをしている。
- 月に1回職員会議、学期に1回園内研修をしている。園全体がチームとなって保育にあたっている。

	担当委員より
教育 ・ 保育内容	園全体で保育の質の維持・向上のために、チームとして保育に意欲的に取り組もうとしている雰囲気が感じられた。どのクラスも子どもが主体的に遊びを進めていけるように、既製品の玩具だけではなく、子どもの発達や興味に応じた環境を手作りで工夫している。 0,1歳児では、笑顔で声かけしながらスキンシップを大切にしており、一人一人の子どもに保育者が寄り添いながら適切に対応している。また、子どもの育ちを支える保育環境を工夫している。2歳児では、1回目の視察訪問時の助言を受けて、子どもの興味・関心に合わせて保育環境や保育室の空間の使い方など更に工夫されている。特に、どんぐり転がし、なりきり遊び、弁当作り等の保育環境の充実が図られている。 3歳児では、「『一人一人の楽しい思いの充実』の視点から環境を見直してみると良い」という助言を受けて、保育環境を工夫されている。特に、アクセサリー作りや転がし遊びは、一人一人の楽しい思いを発揮できるので良い。 4歳児は1回目も2回目も子どもが主体的に色水遊びを進めていける環境を園庭に用意され、遊びの継続の中で試行錯誤したり、気づきや発見が豊かに生まれたりするように保育の展開や環境が工夫されている。5歳児でも子どもが主体で「自分たちで作るサーキット遊び」や「ハロウィンパーティー」を企画実行するなど、保育の展開や環境が工夫されている。今後は更にドキュメンテーションを活用した子ども理解を深め、保育の展開を考えていく園内研修などを行うと、実践力が更に高

	まると思われる。
教育課程の編成	・月案も理想的に作成されている。視察訪問時資料の自己評価の取組内容と月案とが合っているかチェックをしていくことで、自己評価と月案が連動するようになる。合致する部分にはラインを引き、合っていない部分、取り組めていない部分は次への課題へとつなげていくようにすると良い。 ・月が終わった後の評価とし、全体計画に反映されていくと良い。
安全管理 ・ 防災教育	・避難訓練は同じような内容、パターンの避難になりがちなので、まずは違う設定の訓練を1回でもよいのでやってみると良い。 ・火事の際の設定を5歳児に伝え、どう逃げると良いかを子どもたちと先生が「自分たちで考えてみる」ということも良い。「先生が決めたことだけ」に縛られないことが大切。
家庭 ・ 地域との連携	・玄関先でのドキュメンテーションによる情報発信や、地域との連携も十分されている。他園でも広がると良いと思う。 ・保護者で情報に疎い方、またバス通園で園に来られない方への対応を工夫する必要がある。タイミングを逃さず声をかけることで、伝え漏れ、聞き漏れが減るのではないかな。
職員の 資質の向上	・視察訪問時資料の自己評価で書かれている内容や質問内容が高度になってきている。管理職等の先生方のチェックもある中、職員が意欲的に取り組まれている。 ・今回の視察訪問の助言の中で「10の姿」プラス教育・保育要領の「5領域」を結び付けて話をした。今日の実際の保育、ねらい、内容とどう結びついているか、ということのをこれからも確認していったほしい。
食育 ・ アレルギー対応	・取組の状況に書かれている通りで、十分配慮されて進められている。 ・このまま継続していただきたい。
関係者評価の 取組	・視察訪問は、外部からの保育・教育の評価として位置付けることができる。 ・第三者評価の機関は適切に選ばれた方が良い。慌てて取り入れる必要はない。